洋学文庫
文庫 8
C 413

肥ヱ馬血をとり候計宛追而鎔
器ニ仕差上可申候

一 クヱンブニ上京の肉を塩ニ切り漬ケ候
仕形ニ京糸引ニ仕差又追て差上
可申候

41-7743

南葵文庫

阿蘭陀馬書

一 享保十巳午年御用之馬為定享
保渡り去午卯馬並阿蘭陀ケイスル初
日本渡海仕候

一 享保十三年ケイスル弟能御用洋
被仰付阿蘭陀かびたん一同之者共仕候
御用之之儀能相勤候為御褒美かひたん
かひたん江 御銀七拾枚ケイスル江 御銀

[illegible]蔵書

三拾枚為願之候節給仕ゟケイスル
かひたん帰帆之節同人ゟ同月十日
長崎江相返仕候
一 享保十四酉年下ル宗門改ケイ
スル騎御用之節 御出役
今村市之丞騎御用一同ニ候
江戸参府之節 給仕長文吉雄忠次郎
同年将源藏之候 同年八月十二日

長崎出立同年九月十九日江戸出立
ケイスル享保へ被為 給仕渡候
相勤候御用之候 御年十月三日役
中ニ而続ケイスル江相馬仕込之候 御年相済
享保江出立之節書物荷物東海道
藤原之節和解等取ニ渡候
御用仕入御本一同相勤中ニ而
翌年二月朔日西安朝鮮御用之場ニて

ケイスル宗ヘ
御ゝ返報為拝 右之旨通事長尾
能右衛門を以
同二月廿日ケイスル今村市之丞吉雄
忠次郎通事長尾能右衛門を以申上候
御暇被成下候趣謝義仕候
御銀七拾枚　ケイスルに
御金拾両　今村市之丞

御銀五枚　吉雄忠次郎
右者市之丞忠次郎御用方為御役
料壱ヶ年銀五百目宛被下置候
依之右加増之上　御礼仕候
一　同二月九日白書院ニ而同月十三日
市之丞忠次郎河原伊兵衛人分之長崎
帰帆仕候
一　同月十五日江戸発足ケイスル長崎

帰帆仕候

一 享保二十卯年商売ケイスル又ニ
就御用出島ゟ御法度被仰付候
同道ニ而年番仕二月十九日江戸参
ケイスル参府ニ付通詞仕御用向相勤候
右勤候内御慶事ニ付銀百枚被下候
候ニ付同八月十七日長崎へ帰着仕同九月
帰帆之阿蘭陀船ニ而帰国仕候

十月十七日咬𠺕吧着同十二月廿日於彼
地ケイスル病死仕候段承候辰年
入津の阿蘭陀船ニ而申来候ケイスル
儀ハ享保十巳年ゟ同二十卯年迄
都合拾一ケ年日本滞留仕候事

辰七月

今村大十郎

石河土佐守様
御用馬之場并済等之儀之

一 牧之事

一 馬の乗り仕方之事

一 遠路牽之ときの節之支

一 同旅外ノ節飼料之事

一 張当手ノ事

一 物あたり療の事

一 つちの有所を尋る吉凶之叓

一 あるゝ馬のよくはいる様を能するか
ろ成ゝ事

一 曲馬乗ゝ成のうゑ

一 浜雲抜ニ手綱の事

一 拍子有しよく乗に之叓

一 早馬牧ニ乗ゝ行歩程を母つゝ試し
ろ成の事

一 馬足直の事

一 乗形の叓

一 手のうちしれ事

右拾五ヶ條之内可要之條馬乗
何若業恣人ニ未尋于前有秘
ニ 伝授候一ゝ未尋ヲ以之通
書付進之候

阿蘭陀人問答

一 阿蘭陀国ニてハ牧を何と申候哉 テイニマルカト
イ千国ホウル韃靼国ハ牧有之候哉
より四文里四方の牧も所ニ在候得共
牧ニハ宜キ牝馬斗預り置候而放し
牡ニ候を牧の内ニ入阿蘭陀申候牝馬牡ニ候と
申ニ七才之内ニハ阿蘭陀へ参り申候而種馬

一 阿蘭陀ニて候ハ能駒産シ申候
牧ニて生れ候駒一歩宛預り牝馬ニ事
以下牛馬共ニ候而牧ニ放シ置候而後
尾多ク候ハ毎日能く放し飼候ニ草を食せ
外の飼料をハ為仕不申候得共
厩ニ繋置候ハ麦其ニ飼料を与へ申候
一 馬ニ寸迄ハ平日より麦を与へ申候
牧ニ而候ハ能く飼候而仕入申候

馬桐無ニ候ては拾五歳を極め申候
宗とする事に候 然は馬の性ハ拾五歳より十四歳
ニ至りこそ盛なれ 是又其上ニ生れ候駒ハ
乳を存分に飲せ候へは 能飼付て 仕立候
後々の仕入様 吉日を待て

一 二才の駒をは 人々の通り 十二月を一年
の積りにする事に候 歯をそろへ候も
有る物にて候 是は 毒馬調ふる時 其の分

若く申候事 歯の様子を見て何歳と
極め申候

一 馬二歳 一本二歳半 馬の頃 陰嚢を切り候も
湯和らかなり 筆陳ニ当り候節も 備への場を
兩乳の股 大様なるの所ハ 陰嚢を切申候
一 去る事申候 右二才の性根ハ弱く候
申候 右陰嚢を切りわろくハ 三四月ニして
障り出来 切り申候ても 疵とも痛みて申候

一　弓ハ二張ノ弦ニ而御座候
本国ハ五尺ニ其外ノ長サニ替リ
法ノ筈ヲ用申候筈ハ書ニ寸定法
明ケ尻ノ大小ニより又弐七寸ヲ寸ヲ
打込筈ヲ留メ申候大小ニ而ハ石地
山坂ヲ乗リ而ても渚リ申候在尻板ニ
乗申ても無駄ニ申候而古打ヲ
打込ニ加様ニ而深く打ちヲ

尻ヲ痛め帰く而ハ筈打ニ而候
打ノ長短ニ印ニ切ニ而候事ニ候
一　古鞍又ハ車ノ古板ニ出シ候ヲ候ハ
古き物を用ひて無理ニ古く見へ候ヲ通
り而候ハ深くハ削而て安く仕候
又馬ニ乗り打而法形ノ古ニ出シ候
古き初めニ而上ニて法形ニ引ニ拵申ス
引申ノ世大形耳削ニ而ヲ手ニ申し候

業平を經て語りて扨一ミ條玉迄要
扨て後ハ足手の事申候
一 惣て能する事申候ハ口取ふかて肩をて
くる代にるやうに皆一定の恰好能人
家の時静かにして地道家頭とも
よき時この足拍子おもき声のうけ
扇とハ道ニ大臣又ハ舞せよ
有て候ても舞をしてあしけて花付く

扇ハ相して宮のこと要候也
相をさ又ハ大事として大振太鼓
探りを能する事申候足又宇目家へ合
又も業見をるをよけ行足て伸して
踏おしの振り仕入申候ハ舞ゆると世
して見舞家の又も業婦申候
一 家形の踏手足跪を見きし仕掛
膝ハ扇押し折して振り取りか家の膝

ても鞍を後へつよく挽て手綱を出る
是ハ手前に而候 但一方を足にて踏 其
身を立方にはおしつけて手綱押
ゆ手をおし掻りまはし足にても候
者の余りハ手綱をおし引上て
又頭を下げ候ハ手綱をゆるめ右手を
挽様は一方合点にてとりおろし申し
當り候はゞ手綱を静に引留る

吹様は留り申候 鳥の留様は留
大きく吹様は留り申候 其後留様古来
を合点仕り様に嘗て仕由申候
一 其外寛之懸にて鞍の上に而
或は往向きまゝ有りまは行跡捌て
余りは算も少く取引る上にて業
所へ入不申候
一 日本之馬具にて日本之て有る之余り

ゆるい時ハ一滴こぼるべからず膝にて鍛を
打候雑仕器ニ而申候宗候へく
別ニ建候ハヽ蒸鍛下ハ穏ニ可之申候
一 数日立候を取寄せ候ハヽ
蚯蚓之滴ニ和らか成数酒を交せ
蒸物ニ而噌候足の節に漆出申候
蚯蚓之滴を時ハボウトルを用ひ
中候熱成数日立候宗り事ハ有まじ

葛卯ゆ捕ニ来ニ入ゆて二三日ニ一度づゝ
晒之ニ新生薑と塩とはんぶんと
焼酒を二文せ合瓜壺にたつゝりと
耳付本綿切にて瓜の出り合りと
皮ニ足ニ結候置候ハヽ様目葛卯
出り申候
右馬宗り河菜泡人申ニ候通り
書付差上申候芝又日本ニてハ弱仕候

様ニ而外候ニ付綿後ニ而一ツ為
中御ニ候是日本ニ而も候ハヽ知候取申
其後御返答難申ニ付申候哉
月日ニ相守候ニ付存候
存候ニ而陸ニ而申ニ而候也

巳九月　日

今村市之丞

一 御馬道中朝夕飼様之事
早朝ニ飯を飼候の物ニて牙を揺
いそぎをけつり本能を知りて其がり
足を先ニ掛ひ尾を水ニ付洗ひ
落ひ上り水を呑せ薬を喰せ
出し其後一時程ニ而草を二抓
程喰せ洗りニ候而てあし 冷
先取草を中 草をあし 喰せ申而候

毎夫ニ而御酒よし取候時ハ足並を
能掛ケ而其足二本ニ包せ餘を飼候而後
一 厩ニ菜を出し苦茶飯ニ寢申間敷候様
入念可申候事

巳 九月日付　　今村市之丞
加納遠江守様御内御門番衆中
佐綿相渡

一 目本多通用ハ病の有之馬も病
癒し候も養生仕養秋二季ニ食
汁を被寒ニ而も振り渡り河曲茶泡ニ
育も可有之候哉

何茶泡出し候ハ一日續き御汁
を仕血を出し申候別段極り候而
多汁法ヲ以被害之色薬汁の
洗候ハ耳又ハ口之内ニ而
其之出申候様候の病病

ぐり病之付薬

一 肥たる馬痩ほそく成ける平生には
くひ飼ニけれとも様々に数方
有之候所病方には大抵にて馬も汁
を済し血を多く取申候は貴
ぬいこの如く成くる共有之候
荒き療治にて馬の自然と立様
をはかり候の方には少済し候

肥たる馬には平生飼を二三一
種減し食程を余り喰せは
気汁済し血をとり食の法
汁済し候時は別に飼申は
但馬の病相見之所は馬之
下なるやうに用る一々の血をとる
所薬には事にて候へし
血多く取候者荒療治に成

病めるハ血あしくなりゆるも苦
しかるへく候

一 厩之常ニハ薬なと多く置べし
一 厩之広き内ハ世事をよく可申候 成
中古東を記可申候 広き内ハ
馬をよくいたさせ候ハいたせ申候
むかし極暖ニ而置候ハ時ニ無し
然ル薬文ハ何をも置可申候

いたさせ申へし

一 馬よきの頭ハ芦毛鹿毛
河原毛ハよく候 尤も
前のよき 鼠毛ハよき 足ニ泥
ぬかを洗ひ 栗毛ハ頭ニ 家(?)ニ糠
牛の足 和らかき 時又ハ何時ニ
ても 足合おし 加へ洗申候
足之よき 和らき申候 勿論丸ニも 尤も添

色薬ニ仕候時のこし迄も生ニ而茶ハ
水斗にて洗ひ申候悪敷色を洗ひ流ハ
皆ろふ付候て魚皮腐肥ニ迄てハ惜き
黒キ手引ニ川崎ニ章迄悪敷
洗ひ申候作候宗喜と作てハ洗ひ不
申候色洗色印ろふ手申候

一 色張や悪敷肉上り菜とこ候ハ申
色張や悪敷肉こう悪敷こうハ申こ

銅を以て拵香水付館ニ毫を付
糸を入銅ひ申候ほど白紙と肉
より色張や色を出申候而ニ板の板
可手存申候

一 加め候てるこ洗をかこうの
加色てるこ身ニ肉魚く鷹腹の胴
しれ節ハ作くも此根を尻の剃
一ツ宛細うこ剃包を取ニ付く

薬ニ而ハ、剤掛目弐匁半の乳
汁又合程シツデリタアトトヤ練
薬を目分かビイルトヤ麦湯二合
其程右何も煎せ合せ候而跡を
滓のけ候して口へ含せ候ハ
右ニシツデカタアトビイル砂糖とも
只今阿蘭陀人不残仕候由
一 馬ハ牙ニ痛ニ候ぬしよのお来候時ハ阿
蘭陀の酒船二合程ホルトカルノ油掛目八
分、鶏卵ニ黄身ハかり煎合せ候の
鼻ニ入申候、其後薬飲しめ申候
馬の牙ニ總カ㕝しよのお来の時ハアルニノヤと
申油膏薬ニ家樣ニ油を煎合せ塗
候得ハ、其上ヘを荒き毛織のよふく
其上ヘ徂布絹切ニ數ニかし不苦候
又ハ大麦をビイルとや麦湯ニて飴ノ

黄革の袋ニ入弓の肩ニ掛候也

右御座

一 此方の馬場入様　此末東書不成候

馬場迄ハ前々乗付候迄

帰場江仕廻候而出ル前ハ乗付候様

左候ハ乗付候而入申候乗候場ニ而乗

急ニ乗廻し候ハ手綱ヲ取ニしてハ引

馬場ニ弓の口附ニ持ニ程ニ引手綱共

中御座候ニ場乗之御出来候外ニ馬足中

御乗も其方ニ而遠乗之儀申候

一 馬場込候ハ乗候　此末東書不成候

馬場乗入場所ニ而ハ百五拾間程

百二三間拾程間角ニ地形仕右様ニ在

手間と程ハ三尺程ニ築式ハ柵ニ

柱ハ本を又其程ニ建テ其内ニ大

木等を植置目移ニ程ニ

付而申候極り候而毅者可有之哉と覚へ不
申候一ヶ場を家々為廻一里ニ而ハ二里
程遠方家々相申候何茶瑰国ニて
御極之仕家々入申候忠心之事と仕立而
上より茶を家々相廻とも付り当申ニ而候

一 惣而長崎表より　此条右書ニ有之

右之此草屋共候随分仕手前家々入り返
可申ニ而候南茶出崎より家々廻り場所

一 諸道具之儀一服々々挽候ハ本国之
随之拵置候而茶とも故和式之段
方深手前家々相廻可申候

一 おハし虫結馬

右兼而薬り候而出候ハ随分家々上より
急之時一式ハ家伝之書本館之事
而身式ハ日夏まくみ服之候得ハ
血忠とも候而治服和合半程之人

薬を入一呑せ申候若服しにくゝ候ハゝ
人の小便二合半程合せ一呑せ申候
右療治ニても験もなく候ハゝ申候也
下りめ程ハ下り候由申候得共右之
病馬ニ付ても右之候而療治致度
存申候

一 療治之事　御尋ニ付覚書仕候
右之通御座候

右之通馬療治仕来り人ニ申伝候以上

未　三月　　今村六之傳

一 馬膝痛仕候時ハ新藁之茎の葉を
末じかし煖酒一合程ニ而一呑せ申候

一 馬小便不通仕候時ハ牡馬ニハ蚯蚓
下され蓬ニさせやの内ニ入申候又牝馬
小便不通之時ハフラントウエイニと申

膝頭之皰ニ而足瓦の病ニ而胃を
灌ぎ候ニ吉御座候

但
此薬ハ乾杜のうとも刺して能くたし
胃並ニ灌ぐ時ハ何ほども功能御座候

一 馬大便ニ不通之時ハ鷹之糞卵を灌ぎ
合候の火の膝頭ニ而一吉ニ御座候

一 厩之後ニ御脇唐之通ニ仕候ニ入掛を
くつね又ハ寄手様ニて揺ね候ても仕第
ニ而を取て置ハ内ニ而毒を潤して

强り足下ハ一ゝるの右足ニ而方ニ而人薬り
ニ而様を横ニ成候ニ而能ハ右を成る候て
置ても能流れ候て様ニ致し候ニ而を
好ニ而候ニ而足下を様成候ニ付ても
此ニ而御ニ而帰り候て

一 尾之通り仕候ハ必ニ而取ニ而様ニ而
下尾を其ニ御座候能味付候口を明ケ
明掛を揃ニ而年々御座候又下尾又ハ色

掛抜ケ候時ハ蜂巣を塞申候

一 ダイ馬癆治之儀ハ何茂其人嗜有之

候得ハことやしよのく肉の利かす所ゟ

を鼻之穴ニ押入番を甘葉出申候但ハ

其時ハ鐙鞍之ゟし一ツ砂ニ若又脾の

腰掛ニ痛ミ候故又惠せめす掛せ可劒

之候節ハ上腮の門ゟ行て書之

番目ゟ行の事ニ横節ゟ以之候

其節ニ汁を乏血を取申候若又

膝脾なと得道摘し候本癆治

速ハ其本候

一 其り落キ節ある目ニ洞又出かこすこハ

雲々里なとを流し候節ハ流早キ川

其多目を二夕ニ洗ひ申候

一 淡泥成山道大雨降り候て節ハ爛

滄なと坂なとを出り候ハ老如節ハ打売者

一文之儀ハ以前ゟ御定被成候處
近頃ハ宿々ニ而申合ハ、賃銭高ニ致候
由ニ而旅人之者共難儀ニ抔を取ニ騰
ニて一同ニ難儀之様ニ相聞候

一廉路之義猶又稼方之儀ハ通シ
廉路ニ付而ハ日数ニ而ハ荷物稼方之数

一雑用ニ相掛リ候ニ付差支日数ニ相成
宿稼を休業ニ致候ニ付不都合ニ

右之通り被仰付候間、急度
右之通馬宿稼業之者共ニ申渡候
未三月　　　　　代官 市之丞
三宅周防守様　御用　御役

一先達而中申渡候稼業之者共ニ一同ニ存候様
可申候、宿場之儀者難儀ニ成候
支ハ宿方ニハ何分ニ而ハ宿並ニ而稼方之後
ハ此旨可申候

以来絶ゟ下衣宮之家之節ハ有之候
名織の数二三ニ縫合せ為せ申候
是等之節ハ落ち二下衣ハ布之数
一三之波し為せ申候
下衣の有之候名織之数ハ半
の名を以て織之此竟ゟ有之候庭
縫之ゟ是ゟ又落ち之ゟ之数を
業之並の限を承目本之麻抔

之縞製法仕織之ゟ物之ゟ候之
是より布之縞ニ未之一申候布之麻
并其一之衣之法て紬目本之布之
業之之異を商ゟ業抔之加賀ゟ
胡麻仁之申業縞ゟ之ゟ候之布
業目本ニハ之ゟ候之

一

下衣意并為せ須之意ハ為之成
下衣意半為せ縫ニ為せ不申候

ハ写紙寫せる様に仕る為にて

御座候

一 銅版に絵様を入候と申儀を列と館に相當

之ハアブル是ハ長崎にて加候者と申

麦に似候字多く候又月の候字に性

ニて其一字ある列にて候事とて本麦の

類にも有之候由又それ寫せ下ぬく麦

等の大麦小麦写置小麦の糟大衣見

於写せ館也候又ハ列にて銅版紙

生ニて合せ候麦にて醸せ候ニ甘内

写置ハ長崎にての字に乞見せ様子

等申候

大麦小麦の類ニ写置麦の糟等

混申候故字を醸せ申候字を乞見

ハ字ハ列にて仕醸せ申候但写置ハ

之の字に候字せ申候本生の写置

に顕し候事也

一 そみむら入れる肥を取まぜぬれるは
みなれてかいアフルの実かアフルの葉
大麦の葉小麦の葉右之通実を館せ
るなどに右之足を半館せるかよし
久敷ならくなたてるか弱くぬ
かけ山代に上盤し出を蔵り落しな
先を置て見申右をいて仕るなすべし

館さ之入るにはアフルに実同葉
大麦小麦の葉ホを生にて館せ又
かろくぬりれてもするか弱ぬい候
余分の蔵おく上を蔵り仕れても
する弱く成申候

一 行葉泥ところい馬共に相承の葉拂席
ろてれ石大麦小麦の葉飼ゆな変唱泥て
てい菜の葉を飼うなたらて先を置ても

ニ而好ミ不申候是ハ日本ニてハ茶の葉
多くありし所近年より葉を好ミ候
却而絶し一ある茶の葉能く好ミ申
阿蘭陀ニてハ茶の葉無御座候
麦類の葉を取交せ飼申候咬𠺕吧
ニてハ稲を穂の茎ゟとり又六寸
程ニ切り其儘ニて手入用ニ御座候
右葉ともに水ニ漬其儘喰せ申候

其日本の草よりハ性弱く候
此程ニ而
一 咬𠺕吧ニてハ馬飼候とき阿蘭陀ニて大
麦も干かし候古根入ありハ不申候根を
取りて申候
咬𠺕吧ニてハ飼候とハ右ニ通稲ヲ
飼ニ外ハ麦草を喰せ外
の草ハ飼ハ不申候其咬𠺕吧ニてハ

書籍の事申出候

一　書籍の文字ハアフルと見せ大概冬の月

解せ候書籍の形を示申候

書籍の義ハアブル阿蘭陀人之

せ申候書籍の極本國ニてハ

和らる書籍を略せ申候ニ手日本

ニ書籍のとハ遠く申候由ハアフル

ニ而け方の字を書を見申候

ゆゑ阿蘭陀ハアフルニ形リ御座

候て申候由且又阿蘭陀国ニてハ冬

の月略せ候事ハ右之筆を走

らせ于ニ至飼申候也

一　にんまくけ方のを見せ申事

無方のを書せ申候字阿蘭陀

にんまく日本ニて書申

一　酒盛け方の見せ風味を試見申候

酒盛尚地ニて其是仕ねし申候

平常之膏を見せ申候得共何
茶泥膏とハ風味違ひ候弱の
様ニ有之候茶泥膏唯今出
候ニ而相付申候

一 ホルトカル油　但木の実ニ而油相絞り申候

ホルトカル油相絞り申候

一 アルテヤトン油膏薬相絞り申候
何と調合膏薬ニ而御座候

一 アルテヤと申油薬膏薬相絞り
申候是ハアルテヤと申草の根胡
麻仁蒿苣ホルトカルノ油蝋テレ
メンテイイナと申木の脂是ホニ而薬
種ニ而調合仕候膏薬ニ而御座候
右前病患ニ付備ニ而薬種
右ハ為ニ而調合申候

一 ナイラムヒと名付ル右薬ハ薬種又ハ和

茶も有之候所薬多無方のを見せ申
候ハゝ
ナイラ虫付馬の茶種テヤキソイ
テヨムと申郁無方ニて調申不ニて
以是者薬多けニ方のを見せ申候事
彼ニ方の薬多り種ニおさへ申候由

一 馬の毛換ニ付薬へヒムカし茶細末
ニメ一日比背の内ニ〻嶷立合せ毛換たる
事ニ塗候所也有之候但池何ニても
ニ成背の内ニ〻嶷生ニ用ひ候成又ハ
毛煖ニ而用ひ候成又ハ薄ニて毛ニ換
ニ無候ハ療治致ニ付方ニと有之候成
馬の毛換タル所へ塗候所茶種の
内一日比背の内ニ〻嶷をも生ニて用ひ
申候但背を破り内ニ嶷をこれニて事
なり申候左新義を好ニ申候得共

右此外之分ハ古き類を用ひ
申候且又痒ニて毛種々ニ多候ニも
三日の毛ニ而拔候ニも蝦蟇油
塗り申候

一 馬小便不通の時用ひ候ブラトウアイ
こと申燒酒ニ浸り候外但蚯蚓
阿蘭陀ニ而何と謂候哉
馬小便不通之時用ひ候ブラント

ウヱトイントヽ申燒酒ニ浸り申候
蚯蚓阿蘭陀詞ニてハヒイルウヲ
ルムと申候

一 ヒムロノ木阿蘭陀ニて何と申候哉
方のを見せて申候
ヒムロノ木阿蘭陀詞ニてセイビン
ホウムと申候至寸方のを見ル処
申候処同類之様ニ有之ニへ申上候

葉京薄明之遊ニ手セイヒニホウ
ムトハ功能違ひ申候多と書ね
ミ由

一 カナ皆何合ニて拵ヘ成る爪形拵候 求
カナ皆ニ渋常の渋ニて拵申ニ
壱爪之形ニ拵申候

一 肥ゑ候馬血を取り候汁究繕易よ
渋し隠て申候

肥ゑ馬血を取り候汁究退て
繕易ニ仕藁上て申候

一 クヱンブシニ而豕の肉を豎ニ切り略ケ
候仕形米引渋して抜出候
クヱブルニ而豕の肉を豎ニ切略ケ
候仕形之豕条引ニ仕是又退て
藁上て申候

右之通馬薬何葉施人申上候以上

未正月　　　　今村[illegible]

一 馬首毛を振り候ハ
何茶泡画ニてハ熱る毛振る様
ニ可然事

一 鬘ハこのり不申候
何茶泡方ゟハ鬘をかり又ハ
ニ仕ニ長ク仕置画申候毛馬
ニの好次第ニ仕候仕かり不申候

鬘ハ櫛ニてけつり候へ々ゟ
右之方斗ニ而て作らせ画申候毛
鬘厚キ所ハ櫛の歯ヲ付又ハ手
ニて抜き鬘ニ厚薄無之様ニ根
仕申候又鬘を置り候ハ一鬘
の芝斗おし張画餘ハこのり
申候ニ而飛ばし鬘を置け候ハ不
仕候而画ニ候ニ而秀り候共このり申候

一 右阿蘭陀渡ニ而御座候由

暑ハ涼ニ而申候哉寒ハ様ニ致ス

阿蘭陀方ニ而一廏の外ニ事無し

涼ニ候ハ無之ゆへ暑気の節ハ

廏の入口式ハ窓を明ケ涼風吹

通り候様仕候ことにて御座候

未四月

今村市之丞

一 明和五子年ハルシヤ馬飼料として

カチヤンホーンハアルトサアトヤ者初

持渡申候

右者サウメハンニシヤ国の産物ニ而彼地ニ

而惣而馬の飼料ニ仕候由カチヤンホ

ーンの義ハ豆の類ニ而候ニ申候ハルトカアトハ

稗の類ニ而御座候

カチヤンホーン

緑豆の事を謂候へとも

別種とおもへ申候

ハアルトサアト

ハアルトサアト者畑又ハ水地ニモ生シ申
上候虫

カチヤンホーンノ儀ハモツハラ畑ニヨシミツケ
申候虫ニ而御座候

辰 三月

御用大通詞
今村大十郎

阿蘭陀馬書 十一畢